

注意事項

ガッチリくんの計算上の前提条件、設定条件は以下のとおり。

1. 建物重量は、基礎用の重量（積載荷重 1300N/m^2 ）を採用。
2. 津波による建物流出対策には、ホールダウン金物 15KN 用を採用する。
建物総重量を 1 階床面積あたりになおして、ホールダウン金物を均等に配置することで建物を固定するものとして検討する。
ホールダウン金物 15KN 用にした理由は、
(1) 10KN 用は土台固定で、基礎とアンカーボルトが定着していない為採用しない。
(2) 20KN 用以上は、ホールダウン金物 1 箇所あたりで負担する建物重量が集中する為、建物が 1 体となっていない場合途中で破壊され引きちぎられるように流出する可能性があると考えた為。
3. 下屋部分がある場合、ホールダウン金物の数が奇数になる場合は偏心してしまうため、2 本の倍数になるように切り上げ処理している。
4. 壁量計算によるホールダウン金物の数について、 10KN 用（土台固定）は津波対策用の数を検討する際に考慮しない。
5. 津波対策用ホールダウン金物の数は、壁量計算によるホールダウン金物の他に必要な箇所数を示す。